

ヨハネの黙示録 2 章 12-17 節

七つの教会への七つの手紙(3)ーペルガモ

2:12 また、ペルガモにある教会の御使いに書き送れ。『鋭い、両刃の剣を持つ方がこう言われる。
2:13 「わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。そこにはサタンの王座がある。しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、わたしの忠実な証人アンテパスがサタンの住むあなたがたのところで殺されたときでも、わたしに対する信仰を捨てなかった。 2:14 しかし、あなたには少しばかり非難すべきことがある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々がいる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置き、偶像の神にささげた物を食べさせ、また不品行を行わせた。 2:15 それと同じように、あなたのところにもニコライ派の教えを奉じている人々がいる。 2:16 だから、悔い改めなさい。もしそうしないなら、わたしは、すぐにあなたのところに行き、わたしの口の剣をもって彼らと戦おう。 2:17 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。わたしは勝利を得る者に隠れたマナを与える。また、彼に白い石を与える。その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が書かれている。』

はじめに

今日はイエス様が天から教会に送った七つの手紙の 3 番目を一緒に見て頂きたいと思います。

Rev.黙示録2：17 「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。わたしは勝利を得る者に隠れたマナを与える。また、彼に白い石を与える。その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が書かれている。」

このように、七つの手紙の結論には素晴らしい約束があり、その内容は違っても、一つの同じ文章が7回も繰り返して言われています。「耳のある者は御霊が諸教会に言われる事を聞きなさい。」という部分です。つまり、御霊が言われる七つの教会への内容と約束は全てのイエス様の信者に与えられているということです。どの時代に於いても、これは永遠に変わらないイエス様の言葉です。私達も、イエス様から自分に与えられた手紙と約束としてこれを受け止める事が出来ます。最後にこの結論と素晴らしい約束に戻りますが、最初にイエス様の自己紹介の内容についてお話したいと思います。

1. イエス様の自己紹介 (2:12)

黙示録2:12 「また、ペルガモにある教会の御使いに書き送れ。『鋭い、両刃の剣を持つ方がこう言われる。』

イエス様の自己紹介は七つの手紙のもう一つの共通点ですが、イエス様はそれぞれの必要に応じて、自分の特徴を選んで自己紹介して下さい。今回は、『鋭い、両刃の剣を持つ方がこう言われる。』です。ペルガモの教会への手紙は、この自己紹介から、最後まで永遠に変わらない神の言葉としてイエス様が現わされています。先ず、自己紹介では神の言葉を武器として持っている姿を現わしています。最後の結論の部分の中で隠れたマナとして、神の言葉にある真理について話しています。

黙示録一章に既にイエス様の特徴が全体的に詳しく説明されていますが、そこに神の言葉を剣として解釈する手がかりがあります。

黙示録1：16 「また、右手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出ており、顔は強く照り輝く太陽のようであった。」

口からは鋭い両刃の剣が出ているという意味は間違いなく神の言葉を剣として使っておられるという意味です。更に神の言葉は剣の役目がある事について、別の聖書箇所もあります。

ヘブル人の手紙**4:12**「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」

もちろん、イエス様の武器は肉体的な物や物質的な物ではなくて霊的な物なので、霊的な戦いには霊的な武器が必要です。人間の力や人間の能力は通用しません。

ゼカリヤ**4:6**『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって。』と万軍の主は仰せられる。」と旧約聖書に書いてある通りです。残念ながら、教会の歴史ではこれを理解しないで政治的な権力によって、または人間の力によってキリストの国の為の間違って戦った人達があります。使徒ペテロも、イエス様が逮捕される時に、同じ間違いをして剣を出して戦い始めましたが、イエス様はすぐに、止めさせました。

コリント第二**10:3-5**。「私たちは肉にあつて歩んではいても、肉に従つて戦つてはいません。**10:4** 私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

10:5 私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らつて立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、」

とありますが、私達の戦いもイエス様と同じようにこの世の国の為ではなくてイエス様の天の御国の為の戦いなので、目に見えない霊的な暗闇の力との戦いです。イエス様はゲッセマネの庭でペテロに剣をさやに収めなさいと言った後で、ローマ帝国の総督ピラトに取り調べを受ける時に、「あなたは王なのですか？」と聞かれ、「私の王国はこの世の物ではありません。この世の物だったら、私の弟子達は戦っていたが、この世の物ではないのです。」と答えられました。私達の霊的な戦いの為に神様は霊的な武具と武器を与えて下さり、それを使わなければ、私たちは精神的にそして霊的にやられてしまいます。クリスチャンとしての勝利とイエス様の平安と喜びを体験出来ませんし、イエス様と神様の国の前進にも貢献出来ません。

エペソ**6:13-18**。「ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。**6:14** では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、

6:15 足には平和の福音の備えをはきなさい。**6:16** これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。**6:17** 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。

6:18 すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」

当然、自分自身を守る為に、一部ではなく神様の全ての武具が必要です。ですが、イエス様の国の働きに貢献する為に武具だけでは終われませんから、これらの中に二つの武器も含まれています。御霊の与える神の言葉である剣と御霊による祈りと書いてあります。私達は自分の力だけで、祈りさえも出来ませんが、聖霊が助けて下さいます。

2. イエス様の励ましの言葉 (2 : 13)

黙示録**2:13**「わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。そこにはサタンの王座がある。しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、わたしの忠実な証人アンテパスがサタンの住むあなたがたのところで殺されたときでも、わたしに対する信仰を捨てなかつた。」

先ず、あなたの住んでいる所はどんなに難しいかを全て知っているし、その大変な所で私の名前を為に頑張つて私の信仰を否定しなかつた、と言つてイエス様は彼らを励ましています。最初のエペソ教会に送った手紙の時と同じように、言わなければならない叱る言葉の前に励まし強めてあげるイエス様の優しさがここにあります。片手で訓練する時でも、もう一方の手によって強めて下さいます。今も、私達に対する取扱い方は変わっていません。

ヘブル人の手紙**13:8**「イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。」

この御言葉の文章の流れとして**5-6**節には素晴らしい約束があります。

13 : 5「主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。**13:6** そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましよう。」

このような約束を暗記することでサタンの嘘の火矢を消すことが、先ほど読んだ神の武具の中でも信仰の大楯を使うということです。聖書の信仰は神の存在を信じるだけではなくて神の約束を信じると言う事です。

ペルガモにはサタンの王座があるというイエス様の言葉の意味について2週間前に説明しましたが、その当時、そこには偶像礼拝の中心になっていたローマ帝国の皇帝を神様として崇拝していた神殿がありました。

その迫害を既に体験して来て、イエス様の為に忠実な証人としてアンテパスと言う信者が殺された大変な時でも、この教会の信者達はイエス様を否定しなかったと書いてあります。

第一コリント**10:19** 「私は何を言おうとしているのでしょうか。偶像の神にささげた肉に、何か意味があるとか、偶像の神に真実な意味があるとか、言おうとしているのでしょうか。

10:20 いや、彼らのささげる物は、神にではなくて悪霊にささげられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。

10:21 あなたがたが主の杯を飲んだうえ、さらに悪霊の杯を飲むことは、できないことです。主の食卓にあずかったうえ、さらに悪霊の食卓にあずかることはできないことです。」

使徒パウロもイエス様と同じように偶像礼拝の神は悪霊である事をはっきりと言っています。しかも、イエス様はその当時、サタンはそこに王座を持っていると言っています。この一番難しい所でペルガモの教会の信者達はイエス様の名前を堅く保ってイエス様の信仰を捨てなかった、と褒められています。

誰でも、こんな極端な事情と酷い環境の中でここまで耐えて来ただけで十分でしょう、と考えたい、ものです。キリストの教会の歴史で誰よりも迫害を耐えた人の意見を聞きましょう。

ピリピ人 **3:12-14**. 「私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕えようとして、追求しているのです。そして、それを得るようとキリスト・イエスが私を捕えてくださったのです。

3:13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕えたなどと考えるはいけません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、**3:14** キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標をみざして一心に走っているのです。」イエス様の信者として今までどんなに素晴らしい事をして来たとしても、これまでの経験が十分だと考えるはいけません。常にもっとイエス様知りたい、もっとイエス様と親しくなりたい、もっとイエス様の為に前進しなければならないと言う考え方がとても大切です。使徒パウロは前の**10**節でこのように言いました。

ピリピ人**3:10** 「私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、**3:11** どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。」

これまでの経験で満足してしまうと何かで妥協して罪と繋がってしまいます。それが、ペルガモの教会の何人かの失敗でしたから、せつかくここまで乗り越えて来たのに、イエス様に叱られました。

3. イエス様の叱りと注意の言葉 (2:14-15)

Rev. 黙示録**2:14-15** 「しかし、あなたには少しばかり非難すべきことがある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々がいる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置き、偶像の神にささげた物を食べさせ、また不品行を行なわせた。

2:15 それと同じように、あなたのところにもニコライ派の教えを奉じている人々がいる。」

2週間前にニコライ派の教えについて話しましたが、エペソ教会の信者達はイエス様と同じようにニコライ派の行いを憎んでいたため、イエス様に褒められました。ニコライ派の教えについては詳しく書いてありませんが、エペソとペルガモの大きい共通点は、両方の町に中心的な偶像礼拝の神殿があったことです。聖書全体の中にこの2か所だけに書いてありますし、それは間違いなく偶像礼拝と関わる行いです。ですから、サタンの王座のある場所に住んでいると言う意味になるのです。ここで偶像礼拝と不品行と言う罪のすぐ後にそれと同じようにニコライ派の教えを奉じている人々がいると書いてあります。教会全体ではありませんが、残念ながら、教会の一部の人は妥協してイ

イエス様の憎んでいた罪を行っていました。それで、イエス様は彼らに罪を悔い改めるように叱って注意しています。

黙示録2:16 「だから、悔い改めなさい。もしそうしないなら、わたしは、すぐにあなたのところに行き、わたしの口の剣をもって彼らと戦おう。」

ここでイエス様の自己紹介の言葉はこの教会の必要に合わせて書かれたのが見えて来ます。『鋭い、両刃の剣を持つ方がこう言われる。』です。イエス様は神の言葉を使って彼らを罪の悔い改めに導こうとしておられます。

このイエス様の注意の言葉は、気を付けて解釈する必要があります。剣を持って滅ぼすと言う意味ではなくて、神の言葉によって彼らを罪から聖めるという意味です。イエス様は最初に御言葉を優しく語って導いて下さいますが、それでも悔改めようとしなければなら、もっと強く私達の頑固な意志と戦ってそれを砕いて悔い改めに導いて下さいます。イエス様は天国で全ての上で一番の存在になっているように、私達の心でも、一番にならなければなりません。偶像礼拝はお寺や神社の前で祈りを捧げるだけではありません。どんな物や人でも、イエス様より第一に大切にすることが偶像礼拝です。

以前礼拝の中で、私個人の証としてプロサッカー選手になる夢を捨てるようにと、イエス様が啓示の中でサッカーチームのコーチとして現れて下さった話をしました。イエス様は優しく「渡った橋を焼き尽くす必要がある。」と語って下さいました。まだしていないその話しの後半をお話しましょう。私は数年間それに従ってサッカーをやめました。ある時、教会のサッカーチームに頼まれて試合に出てしまいました。せっかくイエス様の啓示を受けたのに、教会の為になると言う言い訳が出来て正当化出来ると思ったのです。2~3試合に出たのですが、その時点でチームと一緒にトレーニングに出たら、すぐに足首を酷く怪我してしまい、二度と一生サッカー試合に出られないようになってしまいました。

コロサイ人3:5 「ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。」

むさぼりと言う意味は何かを神様よりも大切にして、心がイエス様以外の物に支配されていることです。

ヘブル人の手紙12:10 「なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちに懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。」

だから、イエス様は彼らの罪を憎んでいても、彼らを憎まず彼らの益の為に愛のむちとして神の言葉の剣によって聖めて下さいます。前にも言いましたが、全ての神の子どもは必ずこれを経験します。頑固で、なかなか自分から悔改めようとしなければなら、余計に、神様の訓練を経験する事になります。でも、これは自分が本当の神の子どもになっている証拠の一つで神様の愛の真実を学ぶ経験にもなります。

第一コリント11:31-32 「しかし、もし私たちが自分をさばくなら、さばかれることはありません。

11:32 しかし、私たちがさばかれるのは、主によって懲らしめられるのであって、それは、私たちが、この世とともに罪に定められることのないためです。」

訓練の最中に感謝出来なくても、必ず後から、神様の真実な取り扱いを感謝する事になります。

まとめ：イエス様の約束の言葉。(2:17)

黙示録2:17 「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。わたしは勝利を得る者に隠れたマナを与える。また、彼に白い石を与える。その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が書かれている。」

約束は最後まで信じ続ける勝利を得る全ての信者に与えられます。

このイエス様の約束の言葉を考えるとき、以前、70人の弟子達に語られた言葉を思い出します。比べて見れば色々な点で一致しています。

ルカ10:20-22. 「ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」それと

10:21 「これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。」

10:22 「すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。それで、子がだれであるかは、父のほかには知る者がありません。また父がだれであるかは、子と、子が父を知らせようと心に定めた人たちのほかは、だれも知る者がありません。」

合わせて考えると三つの点で一致しています。隠れたマナは神様の言葉に隠れている真理を完全に知るようになること。新しい名前が刻まれている白い石は、永遠に消されない天に書かれている名前。そして、イエス様と本人しか知らない新しい名前とは、一人一人の信者を誰よりも愛して下さったイエス様と何も邪魔する事が出来ない永遠の親しい関係を持つ事が出来るということです。

第一ヨハネ3:2。「3:2 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。」